体験版　バタフライエフェクト

バタフライエフェクト

主な登場人物

城崎　唯　　城北大学　文学部　心理学科

身長　158 センチ　48 キロ

スリーサイズ　　B88(D カップ) / W62 / H89

靴のサイズ 21.5 cm

かわいい無垢な美少女といった感じの女子大生。

伊藤拓哉　　唯の恋人　大学の同級生で同じサークル。

ユーラシア 国際体育大学　格闘部員　多数。

これはフィクションですので実際のプレイはほどほどに。

大人の楽しみをしましょう。

※相手の合意のない性行為は犯罪です。

彼女の犯されているところを見ていたい

　女子大生編　バタフライエフェクト

白い砂浜がずっと続いている。

青い太平洋がキラキラ輝き、青い空に白い雲が浮かんでいた。

唯は黒髪に白い肌に白いビキニ とても清楚な感じだ。

白いビキニがこんなに似合う娘はめったにいないだろう。

黒のビキニが似合う黒田　澪。

黄色のフリルのついたビキニが古賀　明美。

青のビキニの織田　優子。

モデルのような 4 人が浜辺を歩くと男だけでなく、

まわりの人みんなが 2 度見してしまう。

「コート空いたよ。全員集合。」

4 人はビーチバレーコートに小走りで向かった。

唯たちはサークルの夏合宿に来ていた。

朝夕のテニスを中心に 海水浴 バーベキュー　肝試し　夜の飲み会と盛りだくさんである。

唯たち 1 年生 女子 4 人と 伊藤 など男子 4 人と合わせて 8 人のグループで

ビーチバレーを楽しんでいた。

ラインぎりぎりのきわどい球を飛び込んでレシーブして砂まみれになる澪。

立ち上がると、ビキニのお尻の部分を引っ張り中に入った砂を出していた。

更に砂を出そうと飛び跳ねてみた。

その時　お尻はプルンと上下し、澪の胸も揺れている。

それを凝視する、いくつもの視線があった。

ユーラシア 国際体育大学　格闘部である。

練習の合間に 横目で彼女らの水着をのぞき見ていた。

厳しい 稽古と上下関係の中で１年生はかなり鬱憤がたまっていた。

そのうっぷん晴らしにのぞきは安易だった。

そんなところに織田のレシーブが誤って彼らの方にこぼれた。

こぼれたボールは稽古をしていた１年の青木の足元に転がった。

足を取られた青木はよろけて横にいた横山にぶつかりそうになった。

それを横山は避けられたが、さらにその横にいた、3 年の先輩　市村に手が当たり

それが市村の目に当たったのだ。

市村に怪我などはなかったが、先輩は激高し青木と横山は怒鳴られ殴られた。

唯たちはすぐに謝りに行ったが、ビキニ姿の唯と織田を見て市村は

「あんたたちのせいじゃない。こいつらがたるんでるからいけないんだ。

　そんな恰好でいられると１年どもの気が散るから向こうへ行ってくれ」

　と言って取り合ってはもらえなかった。

その場は唯たちは引き上げた。

だが、1年生が怒鳴られている声は遠くまで聞こえた。

「でも、ビーチバレーコートは固定だから、

　あっちが場所を移すべきだったんじゃん。」

「まあ、しょうがないよ。」

「どうせ、奴らも水着　見にこっち来てたんだろうに　自業自得だよ。」

「そうだよな、あいつらどこでもいいもんな。」

「絶対　水着目当てだよ。」

これがバタフライエフェクトの始まりだった・・・・・・

唯と伊藤が浜辺を歩いていると

ランニング中の格闘部1年たちに囲まれた。

「お前らのおかげでボコられまくりだ。」

「ほんと、ひどい目にあったぜ。」

「ごめんなさい。ほんとすみませんでした。」

「すみません。　ご迷惑をおかけしました。」

伊藤の言い方が気に入らなかったのか

青木は自分の言葉に興奮してだんだん荒くなる。

「ご迷惑だと　ほんとに思ってんのか。」

伊藤の胸倉をつかんだ。

「ごめんなさい。ほんとに、やめてください。手をはなして。お願いします。」

唯が謝るがそれも彼らを怒らせた。

「ぴーぴーうるさい姉ちゃんだなぁ。」

「お前ら、ちょっとこっち来い」

手を引かれ、彼らの道場に連れて込まれた。

「ほんとにごめんなさい。許してください。」

何を言っても彼らの怒りは収まらなかった。

道場に連れ込まれると

伊藤はヘッドロックをかけられて首を絞められる。

伊藤は手で相手の腕を叩いて訴えるが

首を絞める腕をほんの少し緩め、伊藤が息を吸うと、また締め込んだ。

伊藤は手で再度、相手の腕を叩いて訴えるが今度は緩めない。

伊藤の顔が赤くなっていく。

「やめて。お願い、やめて。　どうしてそんなことするんですか。」

「そうだな。どうする、姉ちゃん、彼氏　苦しそうだよ。」

「死んじゃうかもしんないなあ。」

「お願いします。　やめて、ほんと　やめてください。」

伊藤のヘッドロックが解かれた。

投げ出された伊藤に青木が足払いをかけ畳にたたきつけ

間髪入れずに寝技に入った。

「腕十字　入ったー。」

「あああ、やめ　ギブギブ、うぉお　いた　痛い。ギブギブ」

「あんちゃん　ギブとかねえんだよ」

「ほら、姉ちゃんに頼みな。」

「やめてくれ、痛い、頼む　」

「やめてください。　こんなに謝ってるじゃないですか。」

「誤ってもらってもこの痛みと怒りは晴れねえんだよ。」

「どうすれば、許してもらえますか。」

「じゃあ、ストリップでもしてもらおうか」

体験版はここまでです。

後は製品版でお楽しみください。